

# 隠岐の島〈アイノマ〉ゲート -次世代まちづくりのための西郷港-



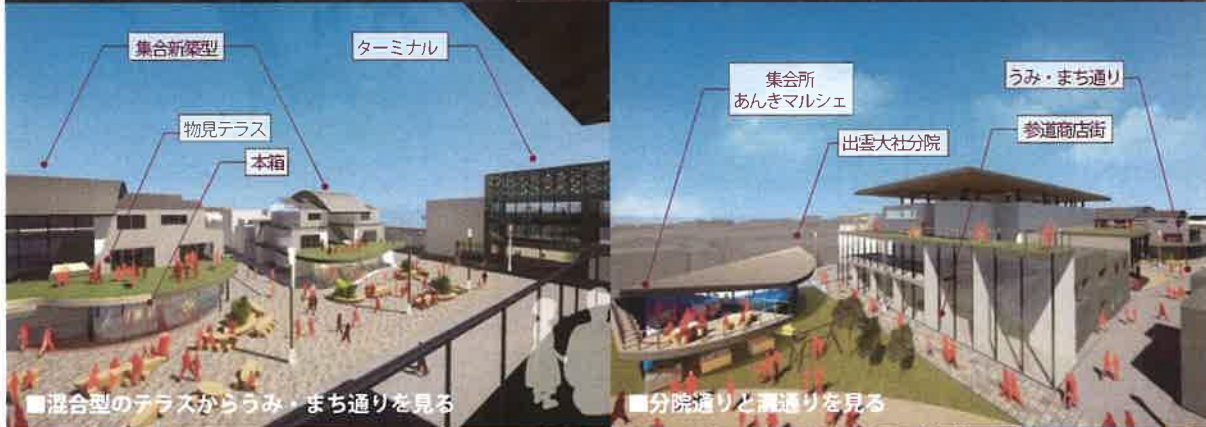
スタジオは全開放して  
野外ステージとなる

隠岐杉の庇や軒が一体的な  
風景をつくる

既存の地割と建物が  
過去と未来をつなぐ

物見テラスは人々を  
アイノマに誘い込む

■うみ・まち通りから台地を見る/隠岐らしい街並みを継承しつつ、新旧様々な型の建築物が共存する風景は進化し続ける。島の暮らしと賑わいを支え、新しいまちづくりの未来の顔となります。



■混合型のテラスからうみ・まち通りを見る

■分院通りと瀬通りを見る

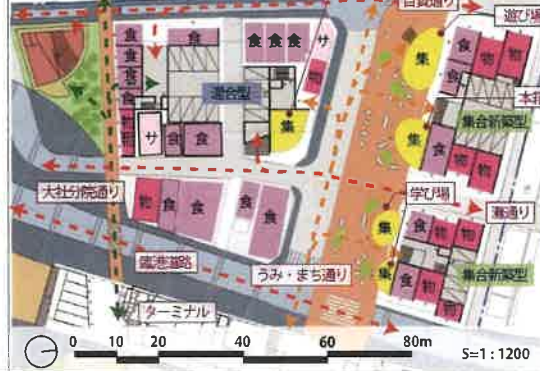


■3層吹き抜けのうみ・まちコアは風雨から守られた半屋外空間で、集い場や観客席にもなる大階段を中心にうみ・まち・人を立体的につなぐ

## ■混合型平面図



## ■街区平面図 地上階



## ■集合新築平面図

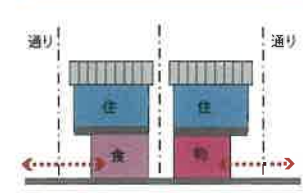


## ■街区システム

	新築	リノベ
個別	B	A
集合	DE	C

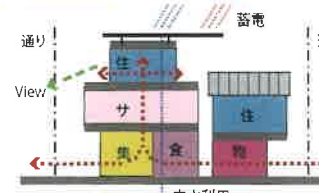
様々な土地の所有形態や段階的な建て替えを可能にする建築物の5つの型を街区システムとして設定します。目貫通りと瀬通りの地割りや2階高さのスケール感、職住近接の暮らしを継承し、容積や駐車場の効率化を行いながら、多様性と一体感のあるまちをつくりたい。まちの履歴を次世代に継承した、交流、商業、暮らしが見える隠岐の「懐かしい未来」の物語と風景をつくりたい。

## A: 個別リノベ型 / B: 個別新築型



『A: 個別リノベ型』は、リノベーションで既存建物を有効活用。街並みを継承しつつ、通り沿いの開放性高い空間で交流を生みます。『B: 個別新築型』は、既存の地割りをそのままに景観ルールに沿った新築で土地を有効活用。建物の建ち方で街並みを継承しつつ、Aと同様の空間型式で、交流、商業、暮らしを見える化します。

## C: 混合型



有効活用されていない土地を一体化利用した新築のバックアップコアは、ABの個別型と共存しながら、容積の有効活用や駐車場などの機能集約を行い、火災時には延焼防止帯として機能します。3階の休憩テラスは、イベント時は観客席、災害時は避難所になると同時に、セットバックで既存の街並みと連続します。街区に一体感を与える大屋根、新旧が同居するハイブリッドな風景をつくりたい。

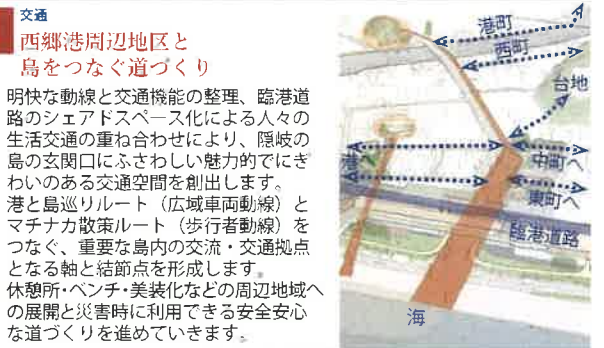
## 集合新築型 (D: 島民+新島民棟 / E: 島民棟)



街区全体を一体的に新築し、商業や住宅、駐車場などの機能集約を行う。2階テラスは商業利用やイベント時の観客席、テラス下は「遊び場」や「本箱」、「学び場」として、うみ・まち通りの賑わいをつくりたい。通り沿いの家型ボリュームは、既存の街並みと連続します。『D: 島民+新島民棟』は、職住一体のシェアハウス併設チャレンジショップで、2階アイノマは、事業相談などのコミュニケーションキッチンとなります。『E: 島民棟』は、個別住宅と店舗の集合体。アイノマの屋は商業利用、夜は近隣住民の隠れ家として、まちの新しいたくらみが生まれます。

## 既存施設と提案面積 単位㎡

施設名	現況	ABCE	D	遠伝テラス
物販	400	420		
飲食	1100	1150	140	260
サービス	200	290		
住居	1500	1580	370	400
集い場		540		



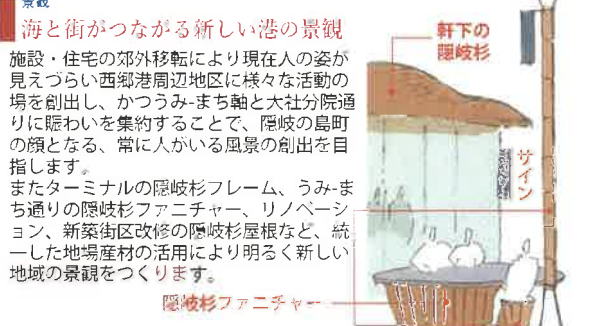
**交通**  
西郷港周辺地区と島をつなぐ道づくり  
明快な動線と交通機能の整理、臨港道路のシェアードスペース化による人々の生活交通の重ね合わせにより、隠岐の島の玄関口にふさわしい魅力的でにぎわいのある交通空間を創出します。港と島巡りルート（広域車両動線）とマチナカ散策ルート（歩行者動線）をつなぐ、重要な島内の交流・交通拠点となる軸と結節点を形成します。休憩所・ベンチ・美装化などの周辺地域への展開と災害時に利用できる安全安心な道づくりを進めていきます。



**交流**  
早期から継続的な交流を生むまちづくりの推進  
「島民」「新島民」「来訪者」がそれぞれが求める新しい「日常以外の環境」が重なり、「食、人、モノ、コト、学、働」の様々な活用をする人が、同じ空間を共有する交流の場を地域と一体でつくっていきます。特に地域との共感が難しいまちづくりの最初の時期を特に重視し、ラボの早期立ち上げや、ターミナルの将来像の壁面づくり、事業開始初年度から将来港の緑化や地域へ植樹する苗木を育てる苗木パークの活動など継続的な交流を生むまちづくりを進めていきます。



**暮らし**  
住み続けながら新しい商業・生活の基盤をつくる街区更新  
改修エリアの暮らしと商業の仮移転となる転居支援センターの早期整備により、近くに住み続けながら新しい商業・生活の基盤をつくる街区更新を実現します。まちなみラボによる地域の態勢調査と、多様な再生手法が連動する街並み再生モデルにより、西郷港周辺地区における空き店舗、空き家の活用実績を蓄積し他地区に展開します。また西郷港周辺地区では、新たな生活様式での生活行為の多様化に対応できるように、住居と交通空間やオープンスペースなどの近隣環境が一体的に利用可能なQOLや子供の幸福度が高い居住地を創出します。  
※「まちなみラボ」の詳細は2ページ目左下を参照



**防災**  
豊かな生活空間と防災機能を重ねる  
海から台地へまっすぐつながる国道をうみ・まち通りとして補強し、災害避難路整備（台地への道・手すりの設置）と合わせ、道自体が港から台地への避難サインになる明快な空間構成とします。また改修するターミナルの大階段や沿道の建築物の2階テラスなど身近な高い場所を一時避難場とします。苗木パークなどの展開は密集住宅街の延焼防止（防災広場）としても機能します。樹木が生い茂る台地は倒木リスクのある樹木を防犯・防災の観点から伐採するとともに、4地域合同の防災訓練時や有事の避難先として利用されるよう整備を検討します。

